

第1学年2組 音楽科学習指導案

【日時】令和6年7月24日(水) 10:20~11:05 【場所】1年2組教室 【指導者】御厨 有花

本授業の参観の視点

生活の中にある3文字や5文字の言葉を既習のリズムに当てはめた音楽づくりを行います。「りずむでおみせやさん」ごっこを通してリズムあそびの面白さや友達と協働する楽しさを感じて演奏する児童の姿をご覧ください。

1 題材名 はくに のって リズムを うとう

2 題材の構想

(1) 題材について

この題材では、前題材での「拍」の学習を基に、リズムの違いやまとまりを感じ取って、拍やリズムに対する感覚を楽しみながら育てていくことをねらいとしている。歌うこと、打楽器を演奏すること、聴くこと、体の動きを使って表現することなど、様々な活動を通してリズムの違いを生かした表現に思いをもったり、拍とリズムとの関わりから感じる曲の楽しさなどを見いだして聴いたりすることができるようにしていく。また、3文字と5文字の言葉から生まれるリズムと「反復」や「呼びかけとこたえ」を用いて、簡単な声遊びをする音楽づくりの学習においては、言葉をリズムに当てはめて唱える面白さや、それを友達とつなげて発表する楽しさを味わうことができるようにする。

拍やリズムに対する感覚を養うためには、低学年のこの時期に、遊びや体の動きを通して、段階を踏みながら繰り返し行うことが大切である。「拍」の感得から拍にのったリズム打ちができるようになることで、2学年の拍子の感受へとつなげていく。

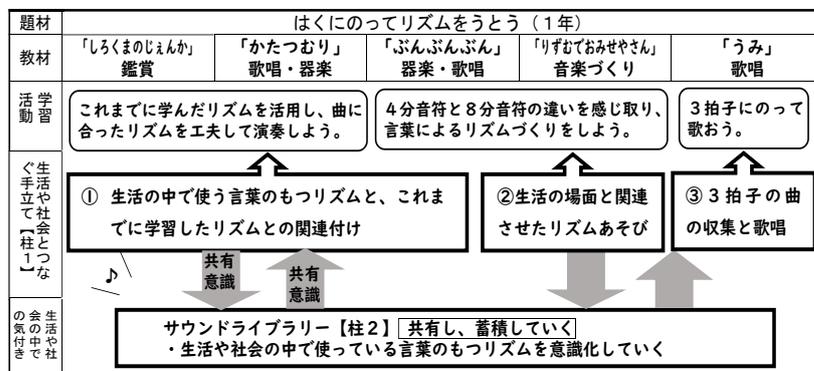


図1 研究テーマに基づく題材の流れ

(2) 児童について

本学級の児童は音楽活動に意欲的で、常時活動では、既習の曲はもちろん、校歌やリクエスト曲なども拍に合わせて手拍子をうったり体を動かしたりしながら歌うことができる。本学級の児童34名に対して事前アンケートを行ったところ、普段の生活の中で、今までに学習してきたようなリズムを見つけたことがある児童は9名(26%)であり生活の中でリズムを意識している児童は少ない。普段どのような時にどのような音楽を聴くのか問うと、車の中や家で流れている曲や、テレビから流れている曲を聴くという回答が多く、自分で選ぶというよりも間接的に流れてくる音楽を聴いていることが分かる。童謡や子どもの歌などよりも、流行りの曲を耳にすることが多いので、授業で取り扱うような拍やリズムが取りやすい曲にはあまり触れていない。また、言葉でリズムあそびをした経験も少なく、生活や社会の中の音や音楽と授業との関連を感じている児童はほとんどいない。

そこで、日常生活の様々な場面にあふれる言葉を使い、拍にのることで、文字数によって言葉そのものがリズムになり、それらを取り上げていく「リズムあそび」を単元を通して行う。生活や社会の中にはたくさんのリズムがあふれていることを知り、実感をもってリズムを捉えられるようにしていく。

(3) 指導について

指導に当たっては、鑑賞、歌唱、器楽、音楽づくりによる活動を展開する。題材を通して、生活や社会の中で使っている言葉のもつ自然なリズムを、既習のリズムと関連付けて意識化し、サウンドライブラリーとして共有し、蓄積していく取組を行う(図1)。

生活の中の音や音楽とつなぐ手立てとして、第一次では、これまでに学習した、|♪♪♪♪|のリズムと、生活の中で経験のある「じゃんけんぽん」や「けんけんぽ」のリズムとを関連付けて共有する。また、「しろくまのじえんか」で学習した|♪♪♪♪|のリズムと、「さんぽ」の前奏や、運動会の応援のリズムとを関連付けて共有する(手立て①)。既習のリズムとそれに似たリズムを生活の中から探し、関連付けることで、生活や社会の中で耳にするリズムや音そのものに関心をもつようになる。また、国語科の単元「おもちゃとおもちゃ」の学習後、生活や社会の中にあるお店屋さん見付けを行った際に、自分たちもお店屋さんごっこをしたいという気持ちが高まった。そこで、第二

次では「りずむでおみせやさん」ごっこを設定した（手立て②）。お店屋さんに並ぶ物を考え、その言葉がもつ自然なリズムに着目する。3文字と5文字を組み合わせたリズムは、「ぶんぶんぶん」で学習した | ♪ ♪ ♪ ♪ | ♪ ♪ ♪ ♪ | のリズムにぴったり合うことから、3文字と5文字の言葉を組み合わせることで自分なりに工夫をしてリズム表現を考える。お店屋さんごっこを通して、リズムを使ったやり取りを行うことで、リズムあそびや音楽づくりの面白さに気付くことができる。第三次では、体を揺らしながら、ゆったりと揺れるような3拍子のリズム感や拍子感を味わい、毎日使っている教材「うたはともだち」の中から3拍子の曲を見付けたり、歌ってみたりする（手立て③）。このような手立てを行うことにより、授業で学んだことが生活や社会の中の音や音楽とつながっていくようにする。

(4) 期待する「回遊する学び」について

本題材及び本時における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付けたものが、表1である。

表1 期待する「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力、児童の姿

	内容	資質・能力	児童の姿
ステージA 「題材・領域」	音楽科 「はくにとってリズムをうとう」 鑑賞・歌唱・器楽	・リズムに合う言葉を選んで表現し、リズムのつなげ方を工夫する。 【思考力、判断力、表現力等】	・3文字と5文字の言葉を用いて、4分音符と8分音符のリズムに合わせて工夫して表現している。
ステージB 「自教科」	音楽科 「はくをかんじとろう」 鑑賞・歌唱・器楽	・拍によってリズムを読み、手拍子や打楽器でうつ。【知識及び技能】 ・拍に合った表現の仕方について思いをもつ。 【思考力、判断力、表現力等】	・拍によってリズムをうつことができている。また、反復や呼びかけとこたえを用いながら、リズムあそびをしている。
ステージC 「他教科」	国語科 「おもちゃとおもちゃ」 「おむすびころりん」	・言葉のリズムに親しみ、言葉のもつリズムの面白さや楽しさを味わう。 【学びに向かう力、人間性等】 ・3文字と5文字の言葉を、状況に応じて考えている。【知識及び技能】	・国語科の学習のつながりから、3文字や5文字のお店屋さんを探したり、お店屋さんごっこの状況に合う言葉のやり取りを考えたりしている。
ステージD 「実生活・実社会」	生活の中で使う言葉	・生活の中の3文字と5文字の言葉の組み合わせが、2小節のリズムとして表現できる面白さを感じ取る。 【学びに向かう力、人間性等】	・生活の中の事象から、言葉の組み合わせがリズムにつながることを実感し面白さを感じている。

ステージAでは、題材を通して、教材曲で学習するリズムを拍に合わせて正しくうつことができるようにする。また、リズムあそびを通して、普段の言葉をリズムに合わせている児童を価値付け、本時でも3文字と5文字の言葉のリズムを工夫して組み合わせることができるようにする。ステージBでは、拍を意識してリズムをうっていたり、反復や呼びかけを用いたりしてリズムあそびをしている児童を価値付けるようにする。ステージC、Dでは、「りずむでおみせやさん」ごっこあそびを設定することで、3文字と5文字の言葉をリズムとして組み合わせることにより、言葉を日常生活の中から状況に合わせて選び、工夫してリズムをつくっていくことができるようにする。3文字と5文字では表せない表現をしたい場合のやり取りについては、友達と話し合う時間を設けることで、他者の発想を取り入れ、新たな自分の考えをもち、自分なりに納得したよりよいリズムづくりにつながっていくと考える。

3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

リズム、拍、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取り、思いに合った表現をするために必要な、歌う技能や器楽の技能を身に付けたり、反復や呼びかけとこたえを用いて簡単な音楽をつくったりすることができるようにする。

(2) 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と拍などの音楽の関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けて歌っている。 ・言葉のリズムのつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さなどと関連させて気付いている。 ・思いに合った表現をするために必要な、反復や呼びかけとこたえなどの仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音色、リズム、拍、フレーズを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴いたり、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように表現するかについて思いをもったりしている。 ・リズム、拍、反復、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように音を音楽にしていっていかについて思いをもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・拍やリズムに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、音楽づくり、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 教材曲について

本題材で扱う教材曲について、音楽的知見と期待できる学びを表2に示す。

表2 教材曲に関する音楽的知見と期待できる学び

教材曲名・作曲者等	楽曲について・期待できる学び
「しろくまのじえんか」 ケンウォール 作曲 平井多美子 日本語詞	<p><楽曲について>「ジェンカ」とはフィンランドで生まれたフォークダンスでA+B+Aの三部形式。曲全体がジェンカのリズムで統一されている。</p> <p><期待できる学び>途中に休符を含む4小節のまとまりになっており、音が連続するよりもリズムのまとまりを感じやすい。ステップを踏んだり体を動かしたりして無理なく拍ののってリズムの感覚を身に付けることができる。</p>
「かたつむり」 文部省唱歌	<p><楽曲について>AA' Bの一部形式でつくられ、フレーズごとに歌詞の表す様子が変化している。生活科の「生き物みつけ」とも関連付けることができる楽曲である。</p> <p><期待できる学び>付点のリズムと8分音符のリズムの違いと歌詞との関わりを考え、既習のリズムと歌を組み合わせ、自分なりの表現の工夫をすることができる。</p>
「ぶんぶんぶん」 ボヘミア民謡 村野四郎 日本語詞	<p><楽曲について>原曲はドイツ文化の影響を強く受けたボヘミア地方の民謡である。A+B+Aの三部形式でAとBの対比が鮮明である。</p> <p><期待できる学び>8分音符のリズムを新たに学習するが、歌詞の言葉のリズムと同じであるため、拍ののって歌いながらリズムを感じ取って打楽器で演奏することができる。</p>
「うみ」 文部省唱歌 井上武士 作曲 林 柳波 作詞	<p><楽曲について>昭和16年に発表されて以来広く親しまれ、現在でも歌い継がれている。A+Bの一部形式。使用されているリズム型は様々な動揺や唱歌で用いられる。</p> <p><期待できる学び>教科書で扱う初めての3拍子の曲である。波の様子や海の広さをイメージしながらゆったりと揺れるような3拍子のリズム感や拍子感を味わうことができる。</p>

5 題材の指導計画 (全9時間 本時8/9時間目)

次	時	主な学習活動(○)	指導上の留意点(・)	評価規準(◆)【観点】	回遊
一	1	○鑑賞 「しろくまのじえんか」	・音楽に合わせてリズムを手拍子や打楽器でうち、曲想との関わりに気付くようにする。	◆曲想と拍などの音楽の構造との関わりについて気付いている。 【知・技】	A B
	2	休符を伴うリズムのまとまりを感じ取る。	・音楽に合わせて体を動かしながら楽しんで聴くことができるようにする。	◆リズム、拍、フレーズを聴き取り、曲や演奏の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴いている。 【思・判・表】	A B
二	3	○歌唱・器楽 「かたつむり」	・歌詞の表す様子を思い浮かべながら歌うようにする。	◆思いに合った表現をするために必要な歌声で歌う技能を身に付けて歌っている。 【知・技】	A B
	4	今までに学んだリズムを活用しながら組み合わせを考え、歌に合ったリズムを工夫する。	・歌に合ったリズムを選び、歌いながら試し、表現の仕方について思いをもって練習できるようにする。	◆音色、リズム、拍、フレーズを聴き取り、ぴったりだと思えるリズムを選び、どのように表現するかについて思いをもっている。 【思・判・表】	A B 他者
三	5	○器楽・歌唱 「ぶんぶんぶん」	・演奏を聴いたり歌ったりしながら、リズムの違いに気付くようにする。 ・音楽の感じに合う音色を試して探し、タンブリンのうち方について思いをもつようにする。	◆リズムの違いを聴き取り、曲想を感じ取って、タンブリンを使ってどのように表現するかについて思いをもっている。 【思・判・表】	A B
	6	四分音符と八分音符のリズムの違いを感じ取る。	・歌に合わせて、手拍子や打楽器を演奏し、音色を生かして楽しく表現できるように促す。	◆タンブリンの音色に気を付けて演奏をする技能を身に付けて演奏している。 【知・技】	A B
四	7	○音楽づくり 「リズムでおみせやさん」	・児童の思いから、国語で学習した「おもちゃとおもちゃ」や図画工作科で取り組んだ「好きなメニュー作り」の経験を生かし、「リズムでおみせやさん」を開くことにつなげる。 ・リズムに合う言葉を選び、反復や組み合わせの面白さに気付くようにする。	◆リズムの組み合わせに興味をもち、進んで3もじと5文字の言葉を考えている。 【主】 ◆言葉のリズムのつなげ方の特徴について、それらが生み出す面白さなどと関連させて気付いている。 【知・技】	A C D
	8 本時	言葉によるリズムづくりをする。	・言葉の特徴を生かし、リズムのつなげ方を工夫してつくるように促す。 ・実際にお店屋さんごっこをすることを通して、拍のりながら友達とリズムをつくる楽しさを味わうことができるようにする。	◆お店屋さんごっこを通してリズムや、反復、呼びかけとこたえが生み出す面白さを感じ取りながら、どのように音を音楽にしていくなかについて思いをもっている。 【思・判・表】	A B C D 他者
五	9	○歌唱 「うみ」 様子を思い浮かべて3拍子ののって歌う。	・海の様子に合った歌い方の工夫をし、歌に合わせて体を動かしながら3拍子ののってのびのびと歌うようにする。	◆思いに合った表現をするために必要な歌声で歌う技能を身に付けて歌っている。 【知・技】	A B

6 本時の指導 (8/9)

(1) 指導目標

状況に合った言葉を選びリズムに当てはめることで、言葉をどのようにつなげるかという思いをもって楽しんでリズムをつくることができるようにする。

(2) 評価規準

イ 3文字と5文字のリズムに言葉を合わせ、つなげ方を工夫してリズムをつくっている。

【思考・判断・表現】

(3) 展開 (波線部は「回遊する学び」に関わる姿とその手立て)

学習活動と児童の反応 ()	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
<p>1 既習曲を演奏し雰囲気づくりをする。(10分)</p> <p>・たん たん たん うん た た た た たん うん のリズムにぴったり合うことばは、何があったかな。</p> <p>・3文字はたん たん たん うん 5文字はた た た た たん うん のリズム。</p>	<p>1-(1) <u>リズムに着目するために、「ぶんぶんぶん」を歌ったり、反復を用いた3文字や5文字のリズム遊びをしたりする。(AB)</u></p> <p>1-(2) <u>お店屋さんに並ぶものをつかいて言葉のリズムでやり取りすることで、自分で3文字と5文字のリズムをつくっていく活動につなげる。</u></p>
<p>3もじりずむと5もじりずむをつなげて おみせやさんごっこをしよう</p>	
<p>2 お店屋さんごっこを通してリズムづくりを行う。(25分)</p> <p>(1) お店屋さんとお客さんに分かれて、リズムをつなげながら、やり取りをする。</p> <p>・<u>3もじリズムと5もじリズムをつなげてみよう。</u></p> <p></p> <p>*おきやくさん ★おみせやさん *たまご。くださいな。 ★どうぞ。おいしいよ。 *ばなな。おいしそう。 ★どうぞ。あまいです。 *おはな。きれいだね。 ★おはな。かざってね。 *おむらいす。たべたいな。 ★おむらいす。はいどうぞ。 *いちごあじ。ほいす。 ★はいどうぞ。またきてね。</p>	<p>2-(1) <u>できるだけスムーズに言葉が出てくるように、前時に出てきたやり取りに使えるような言葉を掲示しておき、それを使ってつくることのできるようにする。</u></p> <p>2-(2) <u>拍にのってリズムをはっきり表現できるようにするために、全体に拍を流しておき、拍にのりながら手拍子でリズムをうち、やり取りができるようにする。(AB他者)</u></p> <p>◆ <u>3文字と5文字のリズムに言葉を合わせ、つなげ方を工夫してリズムをつくっているか。</u> (発言、観察)【思・判・表】</p> <p>B <u>リズムに合う言葉を選び、どのようにつなげるか考えてリズムをつくっている。</u></p> <p>C → <u>言葉を集めた掲示を見たり、「ぶんぶんぶん」の音程に合わせてたりしながらリズムを試してみるように促す。</u></p>
<p>(2) つなげたリズムを紹介する。</p> <p>・わたしは、「おいも、たべたいです。」といました。どんなリズムになったでしょう。</p> <p>・ぼくは、「りんごあめ、はいどうぞ。」といました。何もじリズムと何もじリズムでしょう。</p>	<p>2-(3) <u>最初に言葉を発表し、どのリズムをつなげているかを問うことで、聴くだけでなくリズムを考えることができるように、クイズ形式を用いるようにする。(AC他者)</u></p>
<p>3 やり取りの中で出てきた、3文字や5文字で表せない場合のリズムをどうしたらよいか話し合う。(5分)</p> <p>【言葉が足りない場合】</p> <p>①言葉を伸ばす (例) ガム⇒ガーム </p> <p>②言葉をたす (例) ガム⇒ガムを </p> <p>【言葉が多い場合】</p> <p>・言葉をつめる (例) キャラメル⇒ </p> <p>(例) たべたいです⇒ </p>	<p>3-(1) <u>実際の生活のやり取りの中で自然と出てくる例を考えることができるように、3文字と5文字以外の言葉のリズムをどうしたらよいか問う。(DC他者)</u></p> <p>3-(2) <u>複雑になり過ぎないように言葉が足りない場合と言葉が多い場合にどうするかを取り上げる。</u></p> <p>3-(3) <u>文字数によって、音符の長さが変わることを感覚的に捉えられるようにする。</u></p> <p>3-(4) <u>3文字や5文字以外の言葉もリズムを工夫すると表現することができることを感じ取ることができるようにし、全体に共有する。</u></p> <p>4-(1) <u>普段使う言葉が簡単にリズムあそびにできることを実感し、その面白さを味わうことができるように振り返りの時間を設定し、児童同士の意見を共有する。</u></p>
<p>4 本時の学習を振り返る。(5分)</p> <p>・お家の人と買い物に行ったときに、リズムあそびをしてみようかな。</p> <p>・ほかの言葉もリズムにできないかな。</p>	<p>4-(2) <u>実際に生活の場面で、本時の学習がどのようにつながっているか想起させ、本時の学習と生活の中の音や音楽がつながるようにする。(D)</u></p>

